西東京市市民協働推進センター
平成21（2009）年度第７回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成21年12月15日（火）　午後7時～8時20分
■開催会場：市民協働推進センター　サロンコーナー（イングビル１階）
■出席委員：有賀委員、小川委員、熊田委員、坂口委員、中曽根委員、橋本委員、原委員、吉田委員
＜以上８名、五十音順＞
■事 務 局：鈴木センター長、丸木地域福祉課長、中澤主事、金子職員

１．報　告　事　項

１．業務報告について

○11月の月次報告について事務局が説明。

委　員：「市の職員研修（協働について）」で参加人数と参加者の反応はどうだったか。
事務局：午前、午後とも 15 人前後の参加があった。反応では、午後に少し質問があった。真剣に聞いていただいた。
委　員：今後の研修予定はどうか。
事務局：いつ行うか決まっていない。
委　員：参加者は希望者だったのか。
事務局：各部局から1名が参加した。
委　員：参加者の年代はどうだったのか。
事務局：いろいろな年代の方がいた。
委　員：事例発表はどんな内容だったのか。
事務局：花の会と市との協働の事例について話があった。花の会は4人の市民がもっと市内に花を増やしたいと市に話をし、それからだんだんと市内の公園の管理をするようになった。また NPO 法人セプロスは高齢者にパソコン講習を行い、安否確認に役立てている。
委　員：職員研修は、委託契約のなかに入っていたのか。
事務局：もともと協働講座を計画していた。市がこれに入ってきたというかたちである。
委員長：トークサロンに参加した学生に感想を聞いてみた。大学内に学内学会があり、そのなかにボランティア仲介部がある。3 年生なのでボランティアのキャリアを積んでいる。今回参加して、改めて地域からの学生ボランティアへの期待は大きいと感じたようだ。しかし、なかなか地域の期待に応えられていないことも改めて感じたし、今後の課題でもあると言っていた。彼らも大変勉強になったようだ。次世代にどうつないでいくか、学生サイドとしても課題だ。また、参加した地域の方がどう感じたか教えてほしい。
委　員：学生にどんな期待をしているのか。
事務局：ボランティア的に学生にかかわってほしい。参加した学生は、「自分があるボランティアに参加するから行かないか？と友達を連れて行く。１人の学生をきっかけにその学生の友達に継続して参加してもらうようなことをやっていくのがいいのではないか」と言っていた。学生もそのボランティアが面白くないとなかなか参加しないのではないか。
委員長：実際になかなか学生は集まらない。１人で参加するケースも増えてきているようだ。
委　員：学生は学園祭などを見てもエネルギーはあるし、インターンシップなどではこれからのまちづくりに熱心にかかわっていきたいと志は高い。今日、高千穂大学へ行ったら、校舎の上で野菜を作っていて、その野菜の栄養素を書いたチラシを配布しながら参加者に野菜を食べてもらい、意見や感想を求めていた。学生に手伝いばかりを求めるのでなくて、学生側の思いを生かしていける関係ができるとよいのではないか。
委員長：ある程度、世代的断絶があることを知ってからスタートしたほうがいいのではないか。すぐ協働ができるんだという発想でやっていくとお互いに不幸になる。大学生の巻き込み方は大きな課題なので継続的に検討できればと思う。

○11 月のセンター市民登録団体および相談報告について事務局が説明。
事務局：NPO 法人ヒューマンプランニングは、サロンの使用などで協力していきたい。

２．12 月以降の実施事業について

委　員：アドボカシー講座の名称はそのままか。
事務局：チラシは、アドボカシー講座だけでは意味がわからないので、アドボカシーという言葉に補助的な説明を付けることなどを考えている。わかりやすく工夫したい。
委　員：アドボカシーという用語を使うことにこだわるのか。
事務局：入れたいと思っている。今後どのように認知されていくかわからないが、知れ渡っていくのはよいのではないか。
委員長：アドボカシーを広めていくのであれば使用していくことは必要だ。
委　員：12 月 7 日に開かれた子育てママのトークサロンの報告がなかったが。
事務局：３回目のサロンとなり、ちろりん村と子どもアミーゴ西東京の方、ほか 1 人がゲスト役。参加者と今後どのようにしていくかなどを話し合った。「来年４月以降も続けていきたい」「年に６回、２カ月に１回継続してもらいたい」との声があった。市とも相談したい。
委員長：このトークサロンを３回行っての感想は。
委　員：次にどんな方の話を聞きたいか参加者に決めてもらった。２回目は子育てコムの方、3 回目は、自分の家でサロンのような場を運営している方を呼んだ。今後は、サロンの参加者たちが一つの団体を作って続けていったらどうかと提案した。参加者は保育があるので安心でき、市の施設ということで信頼度がある。いつも会えない人とここで会えることが楽しみでもある。ただ、新しい団体をつくって世話役をするほどのパワーはないし負担が多くなる。何回も参加する人がいたので提案したが、まだ機は熟していないと感じる。実行委員会をつくって進めるのがよいとも思ったが、それもまだその段階に至っていない。
ゆめこらぼとしても、同じ人が何回も参加するのは公平性を欠く。今後は市報に掲載して公募するので参加したい人は毎回参加できなくなることになるが、それでもよいとのことだ。また、市報を見て参加したいときに参加するので、子育てママのトークサロンは継続してほしいという声もある。参加者はこの時間を楽しみにしているのが感じられた。
委　員：ゆめこらぼが主催することの具体的な制約はなにか。
事務局：公平性が必要で、同じ参加者を再び呼ぶことが難しい。１回目の参加者の中から、これで終わるのではなくて２回目をやりたいとの声があったため２回目を開催した。しかし市からは、「１回目の参加者に限定して声をかけて２回目を開催するのはいかがなものか。市報を通して全市民に声をかけ参加してもらう形を取った方がよいのではないか。参加者が団体・サークルを作り、トークサロンを開催するのは問題ない」との考え方が示された。
委　員：同じ参加者で深く話し合っていきたいのかと思っていたが、参加者は入れ替わってもこの場所で話ができることがよい機会であり、楽しみにしているということだった。
委　員：市の事業であるため安心感があるだろう。
委　員：自分たちが開催するとなると、場所取りの問題も出てくる。
委　員：トークサロンはすべて市報に掲載されているのか。
事務局：子育てママのトークサロンの２回目と３回目を市報に載せていないだけで、ほかのトークサロンは市報に載せた。
委　員：市報の掲載スペースが多く、ゆめこらぼがうらやましい。公開で参加者を募集することは、公平の趣旨に沿っている。
委　員：トークサロンには自分が個別のサークルを引っ張っている人が参加している。その人たちにつながりのある人も多く、どこかでまたつながりができる。
委　員：そういう参加者も先ほどの話にあった実行委員に手を挙げてもらいたい。
委　員：子育て中のママは昼間で保育付きでないと参加できない。しかし自分の力を市や地域の何かに役立てられたらという気持ちはみなさんにある。

２．審　議　事　項

1．第6回運営委員会会議録について

○前回（第６回）の会議録に訂正部分は無く、未定稿を確定稿とした。

３．協　議　事　項

１．ホームページについて

事務局：来年度予算で、ホームページの予算が取れるかどうかだが、取れない時の代替案として、委員に資料を作っていただいた。委員より説明していただく。

委　員：一つは人材バンク、もう一つはいわゆるホームページ。人材バンクは、ゼロから作るとお金がかかるので、ミクシィのソフトウエアのような無料で使えるもので作った。機能はミクシィとほぼ同じ。プロフィールの機能を追加した。日記を書いても、コミュニティを作ってもよいだろう。これは３カ月に１度更新される。必要に応じて良いものにできる。予算が取れてもこれを使用したらどうか。もう一つは、ワードプレスというブログを作るソフトウエアで、これもある程度自由に作れる。一般のホームページは管理人がアップしないといけない。現在、ゆめこらぼはブログの良さを発信している。ブログ型ホームページというものが作られている。最新の記事が上部に掲載される。予算が取れなかった場合は、運営するためのボランティアを採用しないといけない。

委員長：ほかの委員のみなさんはいかがか。

委　員：地域ＳＮＳというのは、総務省も進めたらしい。ゆめこらぼは情報発信の場、情報交流の場として何が良いのか。先ほど聞いたところオープンにしないといけないとのこと。どう使ったらいいのか議論し、それをどう実現していくかを考えないといけない。

委　員：両方とも有名なCMS（コンテンツマネージメントシステム）だ。ただし、サーバーを借りないといけない。部品をいっぱい付けて左側のワードプレスでもできる。組み合わせ次第で何とでもできる。それを専門とする業者もいる。人材バンクもコミュニティ的に入ってセミクローズでやるのか、社協がバンクとして持っていて登録制にしてマッチングするような形にするのか。用途と意図によってＳＮＳがよいのかオープンがよいのかで変わってくる。プロに頼んでもこのようなものを使うので、ゆめこらぼでは、無料プラスアルファぐらいのものを使うことになるだろう。あとはウェブに対してどのようなものが欲しいのかを議論し、それに対してどういうツールが最適かを考えたらよい。

委　員：西東京市のＮＰＯ連絡会が、ズープス（XOOPS）というCMSを使ってメンバー間のコミュニケーションを図っていたようだ。

委　員：ＳＮＳは勝手に盛り上がってくれるのができればよいのだが。お互いに話し合ってやってくださいみたいな感じがよい。

委　員：使い方や目的を１度議論したほうがよい。

委員長：いま、実際にそれぞれのネットの中に入ることはできるのか。

委　員：できる。ゆめこらぼとＳＮＳとワードプレスというので、私が勝手にドメインを取ってレンタルサーバーでやっている。

委　員：試しなら、どれも無料で導入できる。

委員長：これはいつから開始するのか。１回見てはどうか。2 人が言うように、どのようなシステムで作るか、どうしていくかも踏まえ継続して検討してはどうか。予算化されるかどうかの問題もある。ゆめこらぼが立ち上げた時に市側がどういう反応を示すか、その調整が大事だ。市から許可が下りない場合は、作業が水泡に帰す、ということになりかねない。

委　員：今はブログでセンター長やスタッフから情報発信されている。あれと変わらないのか。

事務局：ブログ原稿はあらかじめ市側にも見てもらい掲載している。以前、企業にリンクを張ったら、それは宣伝になるとのことで、削除するよう指導があった。

委　員：その記事に関連する企業のリンクか。

事務局：ひまわりプロジェクトの調理の先生のブログの中の経歴で「○○専門学校を卒業」とあったので、その専門学校にリンクを張った。そうしたところ、その学校の宣伝になってしまうので外すように指導された。

委　員：そのようなリンクの張り方は不要だと思うが、講師に呼んだ人の活動の場が企業だった場合、その企

業にリンクを張ることはかまわないのか。それができないと、きちんと情報が伝わらないことも考えられる。

事務局：そこが難しい。市側は企業と市民活動団体の協働を進めていくことが必要と考えている一方で、企業の名前を出すことには慎重である。

委　員：何かルールのようなものがあるのか。

事務局：書き方の問題もあるだろう。

委　員：市のホームページにはバナー広告があり企業を宣伝している形である。

委　員：ホームページに書くよりもリンクを張ったほうが便利な場合もある。

委　員:イオンの社会貢献の話をしてもらうとすると、当該のホームページにリンクを張ることが必要となる。

事務局：それは大丈夫だと思う。

委員長：ホームページをどう使うかはわれわれが考えなければならない。

事務局：本日資料提出したホームページを実際に見ていただきたいが、事務局からＵＲＬをメールでお知らせするということでよいか。もしくはホームページを作成した委員から直接メールにて知らせていただくこともできると思う。

委員長： 委員のみなさんにメールアドレスの公開を了承していただければ、委員から送信することとしたい。この課題は継続して審議することとする。

４．そ の 他

１．次回運営委員会日程について

事務局：次回は 1 月 1９日（火）の 19 時に開会。2 月は１週間ずれて 23 日（火）の開催となる。

委員長：開催場所は当面このサロンコーナーとする。大きめの机を用意してほしい。

以上をもって散会した。